例年通りの阿部節（？）でよさそうで、ひと安心(^_^;)

今年度の授業が始り、今年はどんな学生たちと出会えるかなとの楽しみがある。
一方、一回限りの講話、講演では厚かましくて物怖じしない自分でも、やはり半期にわたる同じ学生相手の授業となると、「年度毎に年齢差が１歳増す学生たちに、阿部節（？）は伝わるだろうか？　受け入れられるのだろうか？」と、年度の最初の授業日前は工夫にあれこれ思案する。

最初の授業日の次に類するような感想文（抜粋）を目にして正直ほっとし、今年度も他校の学生相手でも例年通りの阿部節（？）で大丈夫のようで、一安心(^_^;)

・阿部先生のお話は、普段私が考えていた人生観や人間のことを含んでいて、とても共感できました。
授業の内容自体は障害を持った子どもに対する援助等かもしれませんが、阿部先生からはもっと、人生の根本的な事が学べる気がします。

・今日の授業を受けて、自分達がなろうとしている保育士についてすごく考えさせられました。
ただ子どもの世話をするだけでなく、子ども一人一人のちょっとの変化にも気づくことができる保育士になろうと思います。

・保育士になるには、どういう事が必要か、命とは何か？保育士になったらどういう子供に育てたいか、という事をこれから考えていきたいと思いました。

・「生きる」ということを考えてみても、難しすぎて言葉にすることは私にはまだ出来ません。
でも、やらなければいけないことがあるなら後回しにしない等、「今」できることを精一杯していきたいと思います。
せっかく授かった命です。粗末にせず、生きるという意味が解るようになるまで一生懸命生たいです。

・今日の授業を受けてみて、一番印象に残ったのは、人間は一人では生きていけないという事。
今の自分があるのは、友達や両親のおかげだと思っているので、人と人とのつながりの大切さを改めて実感しました。
保育士とは子供の命や人生を左右する職業なので、へたな事はできないので気をひきしめてがんばりたいと思いました。

阿部幸泰　　（2008 年 4 月 20 日　記）